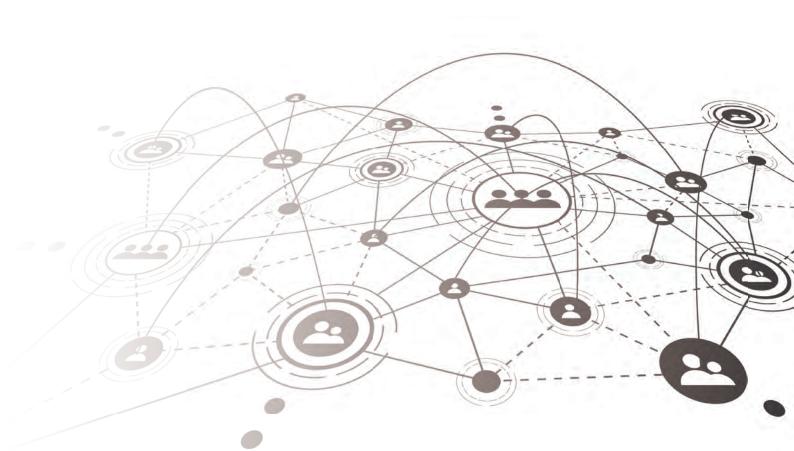
平成30年度 成果報告会

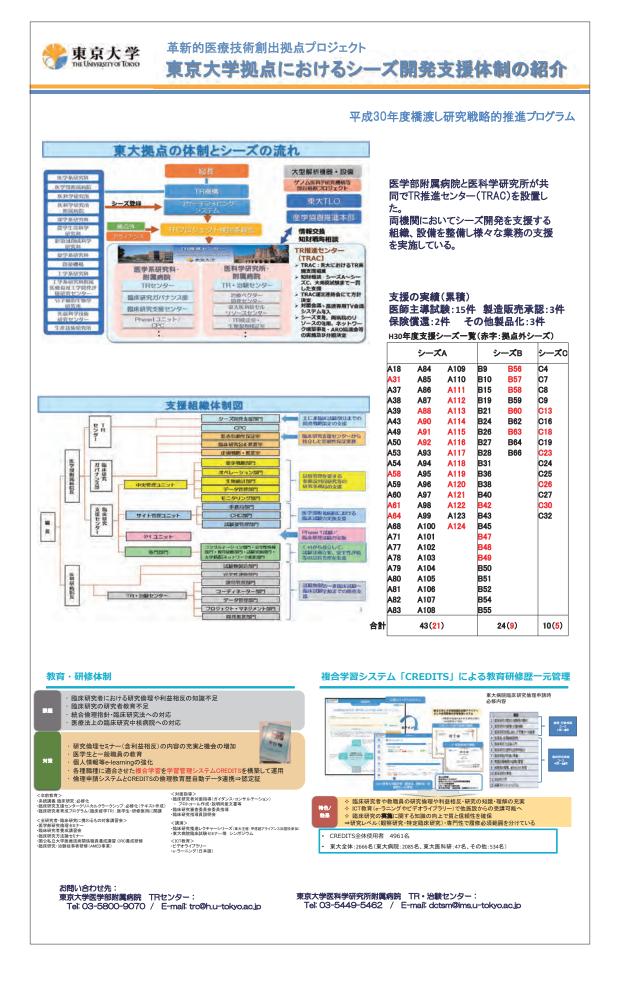
革新的医療技術創出拠点 過去から未来 新たなステージへ

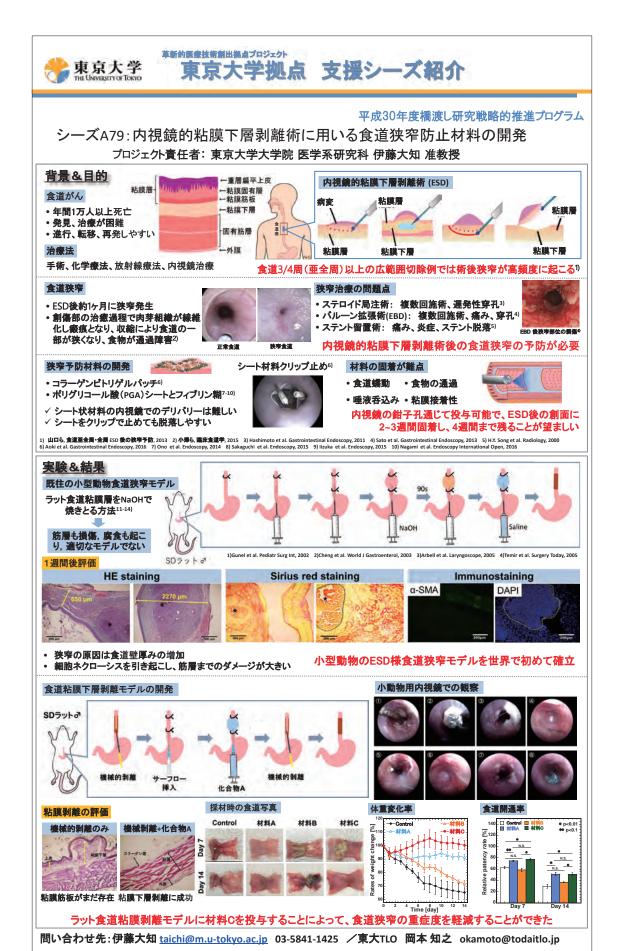
ポスター集

東京大学/東京大学医学部附属病院



東京大学拠点におけるシーズ開発支援体制の紹介





眼底写真自動判定による緑内障自動スクリーニングアルゴリズムの開発



革新的医療技術創出拠点プロジェクト

東京大学拠点 支援シーズ紹介



平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

A81 眼底写真自動判定による緑内障自動スクリーニングアル ゴリズムの開発

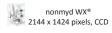
プロジェクト責任者: 東京大学眼科 朝岡亮

深層学習を利用した、緑内障眼底写真診断アルゴリズムを構築 すること

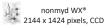
その有用性を複数の眼底カメラで得られた眼底写真で検証する こと。

訓練データの眼底写真を用いて深層学習(residual Network: ResNet)を用いて緑内障診断を行うよう訓練し、検証データを用い てその診断精度を比較すること

・<u>訓練データ(nonmyd WX®:コーワ社)、松江赤十字病院</u> ▶ 正常眼1,768枚、開放隅角緑内障眼1,364枚の眼底写真



- •<u>検証データ1</u>(nonmyd WX®)、松江赤十字病院
- ▶ 正常眼49例49眼、開放隅角緑内障61例61眼
- 緑内障を専門とする眼科専門医が光干渉断層計(ニデック社、) RS3000®)を併用して判定。3人の判定が一致した写真を使



- ▶高度近視群、非高度近視群別々に収集
- ▶眼科専修医3人(3年目、4年目、5年目)が各々独立して検証 データを読影。
- •<u>検証データ2(nonmyd 7®:コーワ社)、</u>町立飯南病院
- ▶ 正常眼110例110眼、開放隅角緑内障眼95例95眼
- 緑内障を専門とする眼科専門医が光干渉断層計(ニデック社、 RS3000®)を併用して判定。3人の判定が一致した写真を使用。



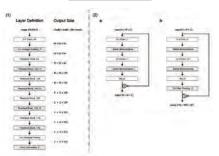
nonmyd /~ 1920 x 1296 pixels, CMOS

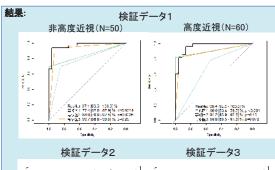
- ・検証データ3(TRC-50DX®:トプコン社)、広島大学医学部附属 病院
- ▶ 正常眼78例78眼、開放隅角緑内障眼94例94眼
- 緑内障を専門とする眼科専門医が光干渉断層計(ニデック社、 RS3000®)を併用して判定。3人の判定が一致した写真を使用。

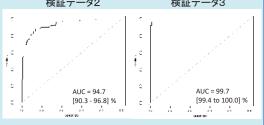


TRC-50DX® 1460 x 1424 pixels, CCD

·ResNetモデルの構造







結論:

ResNet深層学習モデルを用いた緑内障眼底写真診断アルゴリズ ムを構築した。

診断精度はAUC96.4~99.7%で、眼底カメラの種類、撮影施設やま た、高度近視の有無に依らず良好であった。

Development of a deep residual learning algorithm to screen for glaucoma from fundus photography, ci Rep. 2018 Oct 2:8(1):14665, doi: 10.1038/s41598-018-33013-w. PTC-196870

画像処理装置及びプログラム、特願2017-196870、PTC-196870

問い合わせ先 東京大学医学部附属病院眼科 朝岡亮 rasaoka-tky@umin.ac.jp



東京大学拠点 支援シーズ紹介

平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

B4: 結紮を必要としない微細縫合糸の研究開発

プロジェクト責任者: 小野 稔 東京大学医学部 心臓外科

1. 開発の着想

術後回復の迅速性や美容、整容上の希望により低侵襲心臓手術へ の期待が高まっており、内視鏡下手術やロボット支援手術などが試みられている。一方で冠動脈などの微細血管の吻合は高度な技術が必 要で、低侵襲手術では困難である。

既存の自動吻合デバイス(図①)は、血管の開存性、システムの複 成代が自動が自力が入れる[い]は、血量の開併に、スペームの後 雑性、費用の面から汎用されておらず、内積鏡手術やロボット支援手 術で使用可能な次世代縫合デバイスが望まれている。

図①既存の自動吻合デバイスの例







ンプルな``錨" 型デバイス(図②)

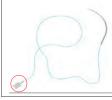
- >既成のpolypropylene 7-0 縫合糸に接続 >縫合方法は外科医が最も慣れた手縫い吻合 >結紮手技が不要
- > 神続後合・結節縫合のいずれも可能 > 連続縫合でも糸が抜け落ちることがない

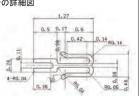
2. 開発初期

- NEDO開発プロジェクト中に出たアイデア(2009~2010)

 大科省科研養基盤研究(C)で実用性の確認に着手(2011~2013)
 デバイスの設計、作成、修正は企業と協力。
- "錨"部デザインの改良(1次から4次試作を経て完成、図③)

図③デバイスの概要図と錨部分の詳細図





生体適合性及び剛性についての非臨床試験を実施

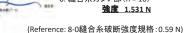
試験材料:生体適合性ステンレス(SS316LS)

- 1. コロニー形成阻害試験: **細胞毒性なし**2. 感作性試験(モルモット): **皮膚反応なし**3. 皮内反応試験(ウサギ): **紅斑・浮腫・出血・壊死なし**

試験材料:縫合デバイス本体

1. 引っ張り試験

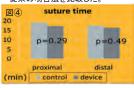
a. デバイスと7-0縫合糸接続部(n = 10) 強度 1.008 N b. 縫合糸カシメ部 (n = 10)



3. 基礎実験

1. ウサギ頸動脈バイパスモデル(**文科省基盤研究c**)

ウサギ頸動脈を静脈による架橋する動物実験モデルを作成しデバイスと 従来の吻合法を比較した。





従来の連続縫合+結紮と比べて開存性、吻合時間(図④)、血液流量(図 ⑤)、遠隔期病理所見(炎症反応)に有意差を認めず、本デバイスの非劣性が確認された。

(文科省橋渡し研究事業費→厚労科研医療機器開発推進研究事業)

心拍動下に左内胸動脈-前下行枝および右内胸動脈-右冠動脈吻合を行い デバイスと従来の吻合法を比較した。



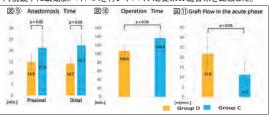




病理評価においてデバイスは従来の縫合糸と比べ、有意な内障増殖(図 ⑥)、リンパ球浸潤(図⑦)、繊維化(図⑧)を認めず生体組織適合性が示さ

内視鏡補助下頸動脈バイパスモデル (厚労科研医療機器開発推進研究事業)

内視鏡下に頸動脈バイパスを行いデバイスと従来の縫合糸を比較した。



内視鏡下の手術野において、デバイスは従来の縫合糸に比べ吻合時間(図 ⑤)、手術時間(図⑩)を優位に短縮させ、術直後の血流量(図⑪)を優位改

4. 商品開発への道

- 7-0に加えて心臓弁手術用の4-0縫合糸デバイスも追加作成 デバイス一個あたり7,000円~10,000円を予定

手技	手技名	使用個数(国内)/年	使用個数(米国)/年	使用個数(欧州)/年
総人口		120,000,000	350,000,000	500,000,000
CABG数		17,000	250,000	300,000
share		30%	30%	30%
CABG	OPEN-CABG	15,300箇所	75.000箇所	90,000箇所
	MIDCAB	1,500箇所	20,000箇所	25,000箇所
	口术CABG	₹ 1,000	5,000	6,000
弁形成	MICS	200cases x 14箇所	2000cases x 14箇所	2500cases x 14箇所
	Robotic	< 1,000.	500 x 14	600 x 14
숨計		21,600	135.000	166,900

- PMDAとの薬事戦略相談事前面談 1回目 2012年11月 2回目 2014年3月 3回月 2015年1月
- 2015年9月 河野製作所(株)と提携し NEDO中堅・中小企業への橋渡し研究開発事業に採用

組織結紮デバイス」 国内 2014年5月27日 ANATOMICAL-STRUCTURE-LIGATING DEVICE J 国際(PCT) 2015年5月27日 米国 2016年11月28日

- 2018年1月24日 医療機器製造販売承認を取得
- 2018年4月1日 販売開始 商品名: Knotless OK suture
- さらに7-0に加えて4-0機合糸デバイスも追加販売
- 東京大学医学部附属病院での使用例 7-0縫合糸デバイス;4例 4-0縫合糸デバイス; 10例

連絡先;小野 稔 東京大学医学部心臓外科 ono-tho@h.u-tokyo.ac.jp 🔭 THE UNIVERSITY OF TOKYO



コンピュータビジョンと拡張現実ディスプレイを統合した手術支援システム の実用化



革新的医療技術創出拠点プロジェクト

東京大学拠点 支援シーズ紹介

平成30-31年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

B45:コンピュータビジョンと拡張現実ディスプレイを統合した 手術支援システムの実用化

プロジェクト責任者:東京大学医学部附属病院 口腔顎顔面外科・矯正歯科 末永 英之

【研究概要】

術野カメラの映像をマーカーレスでリアルタイムに 画像認識して、CT画像(コンピュータ空間)と患者位 置(現実空間)の空間的対応関係を求める処理(レ ジストレーション)を行い、ディスプレイ内にCTなどの 3次元画像を拡張現実表示する。術者が直接見るこ との出来ない部位(血管や神経、骨の位置等)を可 視化し、立体的な位置関係を把握できる。

拡張現実(現実環境にコンピュータを用いて情報を 付加提示する技術)により現実空間において可視化 できる三次元CT画像(実物大立体映像)とコンピュー タビジョン(計算機による視覚機能)を用いた画像認 識による位置情報追跡を行う。



術中の骨や神経等の可視化による安全性向上や時間短縮に期待

【研究の背景】

術野を素早く的確に認識するためには三次元的な 空間認識は重要であり、CTデータから構築する術前 のコンピュータシミュレーションや実物大立体モデル は手術を行う上で有益な情報である。手術ナビゲー ション装置は直接見ることのできない体内の病変及 び手術器具の位置をCT・MRIによる画像情報と位置 センサにより検知し、外科医にわかりやすく提示する ことで正確で安全な手術を支援する。これには、CT・ MRI画像(コンピュータ空間)と患者位置(現実空間) の空間的対応関係を求める処理(レジストレーショ ン)が必要である。

【対象疾患】

口腔外科学領域では、顎変形症に対する顎矯正 手術の三次元的な移動方向と固定位置、血管や神 経などの三次元的位置、顎骨内の腫瘍・嚢胞、埋伏 歯、歯科インプラントの埋入位置・方向、根尖病巣と 根管との関係、根管の状態など三次元的位置の把 握に用いることができる。歯以外をマーカーの代用 あるいはマーカーを用いた場合は、他の診療科領域 の応用も可能。

【類似技術の有無及びそれらに対する優位性】

従来の手術ナビゲーション装置では、CT画像(コン ピュータ空間)と患者位置(現実空間)の空間的対応 関係を求める処理(レジストレーション)を術野と反射 ボールを取り付けたリファレンスフレーム等の位置関 係を把握することで実行する。しかしながら、口腔領 域では、リファレンスフレームの緩みや対象物との距 離による誤差、リファレンスフレームによるワークス ペースの拘束などにより、精度・再現性・操作性が不 良となる。 開発した画像レジストレーション (画像間の 位置合わせ)アルゴリズムにより、マーカーを用いず に歯などの解剖学的特徴を画像認識し、カメラに対 しての患者の位置と姿勢をリアルタイムに計測する。 この方法では、患者の術前CTデータを用いて、歯や 骨に関する形状情報を医用画像処理ソフトウェアに てモデリングする。作られた歯の三次元形状モデル よりコンピュータ空間におけるバーチャルカメラのあ らゆる位置・角度から見たときの歯の二次元投影の 形状情報を作成し、データベースに登録する。





術野カメラから取得した画像に映っている歯と事前 に作られた形状情報とのマッチングを行い、最も一 致する投影形状を探す。マッチングした投影形状を 作った時のバーチャルカメラの位置と姿勢を用いて、 更に最小二乗法による画像勾配と投影形状の一致 度を最適化することで、統計的推定法により最尤の 位置と姿勢を推定する。また、画像上で他の領域に あった物体の影響を最小化するため、患者の歯の領 域を画像上でトラッキングする。それによって、マッチ ングを探す範囲を絞り込むことができ、本方法の頑 健性を更に向上させる。本発明は「視点と視点対応 画像との複数の組が、階層が高いほど視点の数が 少なくなると共に視点対応画像の解像度が低くなる よう階層的にクラスタリングする」所に特徴がある。

【研究実施計画】

PMDAの事前面談では、汎用画像診断装置ワーク ステーション用プログラム (クラス Ⅱ 認証)に該当する と助言されており、臨床試験が不要となる可能性が 高く、早期の認証申請を見込んでいる。

【連絡先】東京大学医学部附属病院 口腔顎額面外科・矯正歯科 末永革之 113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 TEL:03-5800-8669 FAX:03-5800-6832



東京大学拠点 支援シーズ紹介



平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

B47: 気密環境下製造粘膜上皮シートの実用化

B47: Practical use of mucosal epithelial sheet produced in an airtight environment プロジェクト責任者: 京都府立医科大学 眼科学教室 特任准教授 横尾 誠一



本マッチングシーズ

再生医療事業を激安で実現する破壊的イノベーションを提供します

細胞加工施設を使い捨ての消耗品にしました!

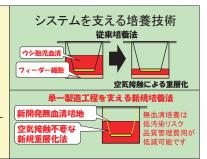
再生医療用シングルユースシステム



シングルユースシステムの特徴

袋の中に培養容器が密封された使い捨ての極めて安価なシステムです 既存施設の老朽化に伴う設備更新の負担がありません

製造に使用する機器は培養器のみ 密封されたシステムの中で製造が完結します そのため重厚なクリーンルームは不要です 出来た細胞シートはシステムごと輸送可能です



シングルユースシステムの汎用性



培養容器を密封する袋 なので、様々な形態の 密封培養に対応できます



開発した無血清培地で 角膜・結膜シートの他 皮膚表皮シートの製造 も確認済です







1. 医療機関で細胞注入 2. 製造工程は保温のみ 3.粘膜上皮シート製造可能

保温のみの単一工程で細胞シートが作成可能です

今後の予定

- ・現法令下で本システムによる安価な再生医療が提供可能か確かめる為に大学等研究機関と共に大型研究費を 獲得し再生医療の実現に向けたプロジェクト事業を推進します。
- ・細胞加工受託業としての実用化や様々な再生医療シーズのシングルユース適用を進めていきます。
- ・本シーズを使用した安価な再生医療を実現する為のパートナーを募集しています。



連絡先

〒602-0841 京都府 京都市 上京区河原町通広小路上る梶井町465 京都府立医科大学 眼科学教室 / ミニマムラボ TEL:075-251-5578 FAX:075-251-5663 syokoo-tky@umin.ac.jp

横尾 誠一

遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いたがんのウイルス療法の臨床開発



革新的医療技術創出拠点プロジェクト

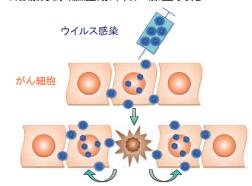
東京大学拠点 支援シーズ紹介

遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いたがんの C07: ウイルス療法の臨床開発

プロジェクト 責任者: 東京大学 医科学研究所 先端がん治療分野(脳腫瘍外科) 藤堂 具紀

プロジェクト概要

がん特異的に複製するウイルスをがん細胞に感染させ、ウイルス 複製による直接的な殺細胞作用を利用する「ウイルス療法」は、放 射線治療や化学療法が効かないがん幹細胞をも根絶し得る革新的 な治療法である。単純ヘルペスウイルスI型(HSV-1)はがん治療に 有利な特長を多く有し、殊に我々が開発した第三世代HSV-1 (G47Δ)は、人為的三重変異によって高い安全性と強力な抗腫瘍 作用を実現した。G47Δはまた、効率の良いがんワクチン作用を有 し、G47Δの腫瘍内投与が、免疫を介して全身に治療効果を及ぼす。 本プロジェクトは、世界に先駆けてG47△の臨床開発を行い、可及 的早期に日本発のウイルス療法薬の実用化を目指す。

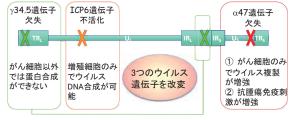


周囲へのウイルス拡散

がん細胞を次々に破壊 ウイルス療法の概念

シーズの概要

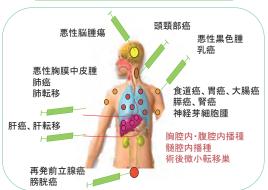
世界初の第三世代遺伝子組換え単純ヘルペスウイルスI型: G47△



G47∆の特徴

- あらゆるがんに応用可能
- 少ないウイルス量で高い治療効果
- 高い安全性
- 抗がん免疫を引き起こす
- 抗体があっても治療効果が下がらない
- がん幹細胞をも殺す

さまざまな難治性がんに応用



現在の進捗 日本初のウイルス療法の臨床開発が進行中

2016年2月 先駆け審査指定品目に選定(第一三共(株)と共に申請) 2017年7月 悪性神経膠腫に対する希少疾病用再生医療等製品に指定

対象疾患	投与方法	開始・終了	試験相	治験/非治験
膠芽腫 (悪性脳腫瘍)	定位脳手術による腫瘍内投与 2週間以内に2回	2009年11月 2014年11月終了	I-Ⅱa	非治験 (終了)
膠芽腫 (悪性脳腫瘍)	定位脳手術による腫瘍内投与 4週間毎に繰り返し投与(最大6回)	2015年5月 2018年7月登録終了	П	治験(医師主導)
去勢抵抗性再発前立腺癌	経会陰的に前立腺内投与 2週間隔で2~4回	2013年5月 2016年10月終了	I	非治験 (終了)
再発嗅神経芽細胞腫	内視鏡下に経鼻的に腫瘍内投与 4週間毎に繰り返し投与	2013年9月	I	非治験
悪性胸膜中皮腫	胸腔内投与 4週間毎に繰り返し投与(最大6回)	2018年11月	I	非治験

今後の展望

- 膠芽腫(悪性脳腫瘍)の第II相医師主導治験における有効性POCの確立 → 製造販売承認申請
- 「先駆け審査指定品目」+「希少疾病用再生医療等製品」 → 早期の医薬品(再生医療等製品)承認
- 他の難治性がんへ適応拡大 → 前立腺がん、悪性胸膜中皮腫 ほか → 全ての固形がん
- G47Δを基本骨格にもつ次世代がん治療用ウイルスの開発

問い合わせ先: dctsm@ims.u-tokyo.ac.jp

腸管下痢症コメ型経口ワクチンの開発



革新的医療技術創出拠点プロジェクト

東京大学拠点 支援シーズ紹介

平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

C12: 腸管下痢症コメ型経ロワクチンの開発

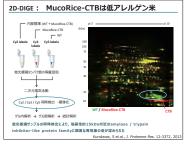
プロジェクト責任者: 東京大学 医科学研究所 清野 宏

設定 施設施施みの対策は影声的が直聴であり、2015 年にはコレラ・大幅番・コタウイルへ、 コックルルを別による下限位は世界で中間の意义が確認し、100 万人が定している。 ワック と 域的によりを無対する情報を存在であるる。 底質のファランは高解的でも必要とする。 の 電に電磁能学さる(コールドン・ニノッタ)。 管理が狙り、アランは高解的では必要といる。 と 100 年の 1

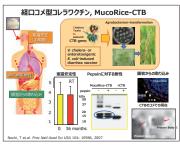
MucoRice-CTB のイネゲノム上の導入位置					
Chromosomes 3 (2 copy)	Chromosomes 12 (one copy)				
2,000/ag 87,315/ag	22,760Ap 23,760Ap 23,760Ap Oryzo sative Genome: Statistics - RAP Build 3				
Chosmosome 3 Advantage 24651121by 24651121by Advantage like III like II	2/303/2019 7/303/2019 7/303/2019				
T-DNA vector d	Sesigned Mill Causes III				
Mejima et.al. Plant Cell Tiss Organ Cult 120	0: 35 (2015), Kashima et.al. BMC genomics 16: 48 (2015)				

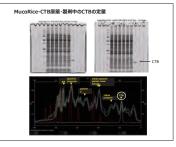
Assessments	Treatment period						Followap period	
	Screening	First dise	Week1	Week2	Week4	Week6	Week\$	Week 16
Vsi	1	2	3	4	- 5	6	1	- 8
Physical measurement (troby weight)	0	0	0	0	0	0	0	0
Physical examination	0	0		0	0	0	0	0
Vtal sigs	0	0	0	0	0	0	0	0
13-bad BOG		0	0				0	0
Laboratory tests (hematologs, biochemistry, and urinaly sis)	0		0				0	0
CTB-specific serum lgG lgA anthody test	0	0		0	0	0	0	0
Scol econination	0	0		0	0	0	0	0
Investigation of adverse events		←						-
Administration of MucoRice-CTB		0		. 0	0	0		

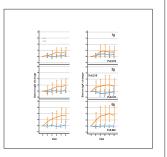




		Placebo 1g (N=10)	MucoRiae 1g (N=10)	Placebo 3g (N+10)	MucoRice 3g (N=10)	Placebo fig (N=10)	MucoRice 6g (N+10)
Any AEs		10 (100.0%)	10 (100.0%)	10 (100.0%)	9 (90.0%)	10 (100.0%)	9 (90.0%)
Gerious AEs		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	1	5	- 4	5	5	2	- 4
	2	4	4	2	3	5	4
faximum Grade	3	1	2	2	1	3	1
	4	0	0	1	0	0	



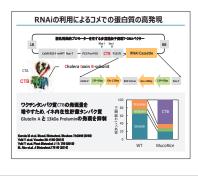
















完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後の S-588410 によるペプチドワクチン維持療法の第2相試験



革新的医療技術創出拠点プロジェクト

東京大学拠点 支援シーズ紹介

平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

C13:完全切除された非小細胞肺がんに対する術後 補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン 維持療法の第2相試験

プロジェクト責任者:東京大学医科学研究所附属病院 抗体・ワクチンセンター 醍醐 弥太郎

研究開発の概要

東京大学よりシーズ導出したペプチドワクチン製剤であるS-588410の臨床開発を行う 師主導治験を実施する。根治的切除された病理病期Ib/II/IIIa期・非小細胞肺がん(60例) の術後補助化学療法として白金製剤を含む全身化学療法を施行されたHLA-A*24:02保 有患者を対象に、引き続きS-588410による維持療法を施行し、本剤の有効性(無再発生 存期間)と安全性を評価する。

試験物の特徴

- ●東京大学で同定された腫瘍特異抗原タンパク由来の5個のペプチドの製剤。
- ●東京大学で以下の特徴を確認。
 - ・肺がん、食道がん、膀胱がんの90%以上の頻度で発現
 - ・腫瘍増殖・生存の必須分子
- •HLA-A24:02拘束性に細胞障害性T細胞(CTL)を強力に誘導
- アカデミア発のがんワクチン療法の開発
- ●自主臨床試験、企業治験が製剤の一部を使用して先行。
- ・治験・開発実施に必要な各ペプチドの知財確保と非臨床試験完了
- ・ヒトでの安全性・忍容性確認済、5ペプチドの早期試験は他がん種で実施
- ・ヒトでのCTL誘導能、腫瘍浸潤リンパ球数増(POCの一部)を確認済
- -ペプチド単剤療法での腫瘍縮小(CR+PR)例と病勢制御(CR+PR+SD)の報告
- ・AMED支援下に本研究課題で医師主導治験(第II相)を実施中

対象疾患・治療学的ポジショニング・開発の進捗

- ①世界の肺がん死亡数は全がん死の17%(年間140万人)を占め最多。
- ②完全腫瘍切除・補助化学療法後の肺がん患者の2年無再発生存率は65%で予後不良で ありunmet needsが存在。
- ③がん治療用ワクチンS-588410は比較的忍容性が高くかつ低コストであり、患者のQOL を保った高い認容性の維持療法として投与可能。
- ④革新的医療技術創出拠点である東京大学医科学研究所に治験調整事務局を設置し、 6治験実施機関(東京大学医科学研究所、国立がん研究センター東病院、神奈川県立が んセンター、北海道大学病院、福島県立医科大学病院、滋賀医科大学病院)及び複数 の協力機関に対応した症例集積、投与試験、モニタリング/DM、電子的原資料システム、 安全性情報管理、バイオマーカー解析等のARO機能を駆使した治験実施体制を強化。
- ⑤医師主導治験実働中、探索的バイオマーカー解析に向けた臨床試料収集(腫瘍組織 末梢血リンパ球、血清、血漿)。
- ⑥探索的バイオマーカー解析に向けた基盤的成果の国際学術誌報告(ESMO Open 1: e000083, 2016, PLoS One 11: e0166626, 2016, Oncol Rep 38: 2189-2196, 2017, Oncol **Lett** 14: 283-292, 2017. 他)。

問い合わせ先: ydaigo@ims.u-tokyo.ac.jp



東京大学拠点 支援シーズ紹介

平成30年度橋渡し研究戦略的推進プログラム

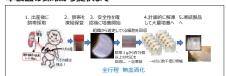
C25: 臍帯由来間葉系細胞を用いた重症急性GVHD治療

プロジェクト責任者: 東京大学医科学研究所 セルプロセッシング・輸血部/臍帯血・臍帯バンク 長村登紀子

概要

重症急性移植片対宿主病(GVHD)は、造血幹細胞移植ドナーのリンパ球が患者同種抗原に反応して増殖し、患者臓器を攻撃する過剰な免疫反応であり、造血幹細胞移植後の予後を左右する重要な因子です。新規免疫抑制剤が開発されているものの、未だ標準治療法はステロイドであり、ステロイド治療抵抗性の重症急性GVHDの長期生存率は10%程度と極めて不良です。本研究は、国内ドナー同種臍帯由来間葉系細胞(Mesenchymal stromal cells; MSC)を再生医療等製品として製品化し、造血幹細胞移植(骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植)後のGrade II~IV重症急性GVHDに対する第1相医師主導治験を多施設共同、非盲検、単群試験として実施することを目的としています。

本製品の採取から提供まで



本製品の特徴

- ①臍帯採取によるドナーへの身体的負担無し →倫理的問題が少ない
- ②国産による安定的供給
- ③臍帯を一旦凍結することにより、無駄な培養なし →効率化とコスト削減
- ④採取から最終製品まで全工程の無血清化 →安全性の向上
- ⑤臍帯凍結技術により、将来、自家臍帯を用いた医療
- への応用できる可能性あり

医師主導治験概要



医師主導治験の概要と実施体制

造血幹細胞移植後にステロイド治療に抵抗性のGVHD(皮疹、黄疸、下痢等)が発生した時に、MSUT-CORDを週2回静脈内投与します。主要評価項目は、安全性、副次評価項目は有効性で、投与後11週間観察します。臨床試験内容はUMIN-CTR(UMIN000032819)で検索できます。

成果と今後の展望

私どもの研究グループでは、臍帯の同意、採取等を行う産婦人科、臍帯由来MSC製品(IMSUT-CORD)の製造と品質・安全性試験を行う東大医科研臍帯血・臍帯バンクとそれを用いて治療抵抗性 GVHDに対する医師主導治験を行う移植施設と調整事務局、支援するAMEDとそれらを引き継ぐ企業という学・官・産が一体となって事業を進めてきました。2018年7月より医師主導治験が開始され、患者さんへの投与が始まり、2019年度末までの予定です。

今後は、製品化の過程で培った多くのノウハウを企業に技術移管して、最終的には、より多くの患者さんに製品を提供できる体制にしていきます。また、他の研究機関や企業と共同研究を進め、GVHD以外の疾患への**適応拡大**を目指しています。臍帯を用いた基礎研究や臨床応用を目指した研究に役立てるべく、その供給体制を確立する計画です。

なぜ 障帯なのか?

		-		
	臍帯	臍帯血	胎盤(絨毛膜)	羊膜
MSC含量	100%	5~10%以下	>90%	>90%
起源(胎児・母)	100%胎児由来	100%胎児由来 造血幹細胞が豊富	探取部位 に依存	胎児由来
採取方法	容易	量の確保に難	単離採取に難	単離採取に難
利点	組織ごと凍結 保存が可能	臍帯血パンクを有 効に使用できる	臍帯血採取後 に採取が可能	臍帯血採取後 に採取が可能

臍帯由来MSCの特徴



臍帯由来MSCは、炎症や組織障害部位へ遊走して、抗炎症効果や組織修復能を発揮する病態に応じた多角的機能を持っています。

今後の展望



臍帯由来MSCの特徴を活かして、GVHD以外にも新生児脳症、肺疾患、脳神経疾患、膠原病や炎症性消化管疾患等への臨床応用を目指して研究を進めていきます。

連絡は臍帯血・臍帯パンク 長村登紀子へ E-mail: tokikoni@ims.u-tokvo.ac.ip